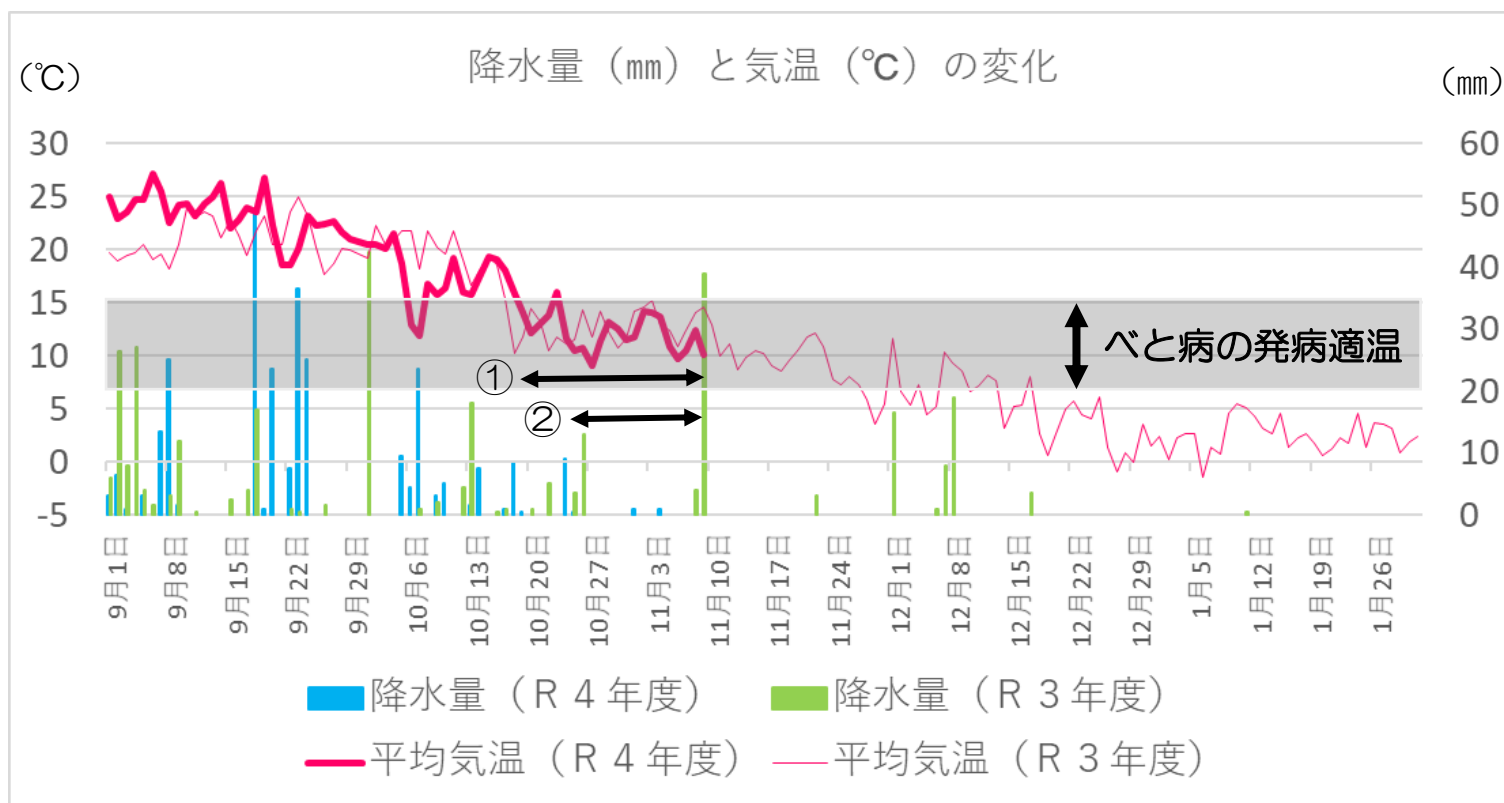


秋冬ブロッコリーにおけるべと病の発生に注意してください

令和4年 11月 大里農林振興センター



↑ 葉での発病
(11/10 深谷市内)



↑ 葉裏のようす

- グラフ内①参照：今年度は、10月中旬頃からべと病の発病適温期に入っています
⇒今後のさらなる気温低下や降雨で、より発病のリスクが高まります
- グラフ内②参照：今年度は昨年度よりも、10月下旬以降の気温が低く推移する傾向となっています
⇒昨年よりも早期にべと病が広がる可能性があります

★11月以降も油断せず、引き続きべと病の防除を続けてください！

秋冬ブロッコリーのべと病対策

令和4年11月 大里農林振興センター

1 ベと病防除の薬剤例（令和4年11月9日時点の登録内容による）

使用方法：すべて「散布」 散布液量：すべて「100～300ℓ/10a」

作用機構分類 (FRACコード)	薬剤名	希釈倍率 使用量	使用時期	使用回数	予防/治療	浸透移行性※1	
M01(M)	Zボルドー☆	500倍	-	-	予防	×	
U17(U)	ピシロックフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内	予防	×	(浸達性※2のみあり)
11(C3)	メジャーフロアブル★	2000倍	収穫前日まで	3回以内	治療	○	
11(C3) 7(C2)	シグナムWDG★	1500～2000倍	収穫7日前まで	2回以内	治療	×	(浸達性のみあり)
22(B3)	エトフィンフロアブル	1000倍	収穫前日まで	3回以内	治療	○	
40(H5)	レーバスフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	治療	×	(浸達性のみあり)

☆：野菜類で登録あり ★：はなやさい類で登録あり

※1 浸透移行性：有効成分が植物体内で移動する作用

※2 浸達性：有効成分が葉の表面から裏面へしみ込む作用（植物体内は移動しない）

2 薬剤を使用する際の注意事項

①銅剤（例：Zボルドー）は、花蕾形成期以降使用しない

②降雨の前日～直前は、**予防剤**を用いる

③降雨直後は、**治療剤**を用いる

④べと病がすでに発生しているほ場では、**治療剤**を用いる

⑤下葉等に農薬がかかりにくい場合は、**浸透移行性**のある薬剤を用いる